

日本株テーマセレクションの運用状況

日本株テーマセレクション
追加型投信／国内／株式

2019年8月22日

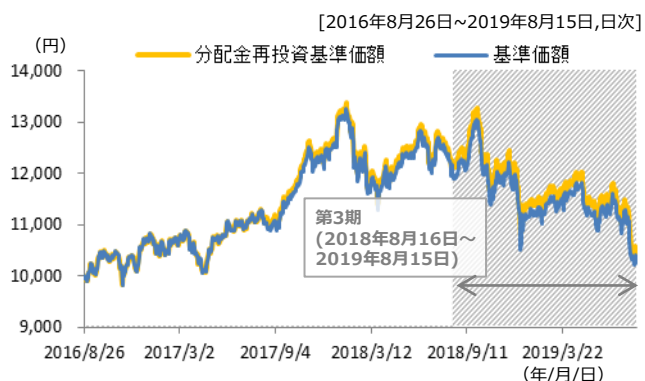
- 当ファンドは、2019年8月15日に第3期の決算を迎えました。
- 当レポートでは、第3期の投資環境および運用状況などについて、ご報告いたします。

【米中貿易摩擦が重荷、基準価額は下落】

第3期の国内株式市場は、2018年10月から12月下旬にかけて、米中貿易摩擦の激化や米国債の利回り曲線の一部で長短金利が逆転したことなどを背景に、世界的な景気減速懸念が高まり、大幅に下落しました。2019年に入ると、米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引き締めへ慎重な姿勢を示したことや中国の景気支援策により同国の景気悪化に歯止めがかかるとの見方から、国内株式市場は持ち直す動きとなりました。その後、米中貿易摩擦の再燃や香港・中東などにおける地政学リスクが重荷となる一方、FRBの利下げ期待が支えとなり、もみ合いました。期末にかけて、米国の対中追加関税への警戒感から下落しました。

このような投資環境の中、当ファンドの基準価額は下落し、前期末の11,981円から当期末には10,256円となりました。なお当期の収益分配は、基準価額水準を勘案した結果、見送らせていただきました。

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本です。
 ※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

【足元は低調な決算発表と景気後退懸念から、組入れの多い景気敏感株が苦戦】

当ファンドは、モルガン・スタンレー・アジア・リミテッドからの情報に基づき、3ヵ月毎に3つの投資テーマを選定し、銘柄入れ替を実施しますが、当期の投資テーマは下表のように推移しました。また、当ファンドのパフォーマンスを参考指数であるTOPIX(東証株価指数)と期間毎に比較しました。

2018年10月-12月は、米中貿易摩擦の激化や世界的な景気後退懸念により株式市場が低迷しました。当ファンドがこの期間に選択していた投資テーマは、ディフェンシブ、生活必需品、ヘルスケアであり、海外要因に左右されにくい銘柄に多く投資していたことが、対TOPIXでプラスにはたりました。

一方、2019年7月以降のパフォーマンスはTOPIXに大きく劣後しています。テーマを選定するための計測期間であった6月は、FRBの早期利下げ期待や米国の対メキシコ関税見送りにより、安値から切り返す動きとなりました。それまで下げていた景気敏感株の反発を受け、素材やロボティクスといったテーマが採用されました。しかし、7月以降は、米トランプ大統領による対中関税第4弾を発動させるとの発言や企業の冴えない決算発表を受け、採用テーマの株価は大きく下落しました。

次回は、10月上旬に10月-12月の投資テーマの選定と銘柄見直しを実施する予定です。

3つの投資テーマの推移と組入銘柄数、組入上位銘柄、超過リターン

期間	テーマ①	テーマ②	テーマ③	銘柄数	組入上位銘柄	超過リターン
18年7月-9月	消費関連	一般消費財	ヘルスケア	114	ファーストリテイリング、ユニ、第一三共	0.12%
18年10月-12月	ディフェンシブ	生活必需品	ヘルスケア	57	花王、資生堂、第一三共	2.56%
19年1月-3月	消費関連	資源価格低下	個人投資家選好	126	日本航空、オリエンタルランド、スズキ	-2.22%
19年4月-6月	消費関連	プライスリーダー	ロボティクス	93	SMC、リクルートホールディングス、キーエンス	1.19%
19年7月-8月15日	素材	高ユーロ感応度	ロボティクス	72	任天堂、キーエンス、信越化学工業	-5.38%

※組入上位銘柄は各期間の銘柄入れ替完了時点
 ※超過リターンは各期間のファンドのリターンとTOPIXのリターンの差

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「日本株テーマセレクション」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

**日本株テーマセクション
追加型投信／国内／株式**
ファンドの状況

2019年8月15日現在	
基準価額	10,256 円
残存元本	754,637,828 円
純資産総額	773,943,375 円
組入比率	97.2%
組入銘柄数	72 銘柄

分配金の実績	
第1期(2017年8月15日)	100円
第2期(2018年8月15日)	100円
第3期(2019年8月15日)	0円

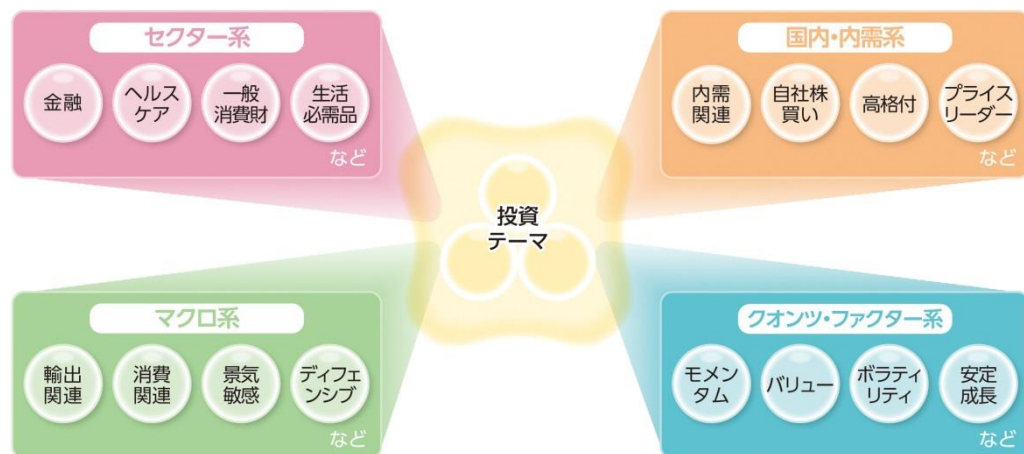
組入株式の上位10銘柄						
順位	銘柄名	業種	組入比率	採用されている投資テーマ		
				素材	高ユーロ感応度	ロボティクス
1	信越化学工業	化学	3.3%	○		
2	キーエンス	電気機器	3.1%			○
3	任天堂	その他製品	3.1%		○	
4	日立製作所	電気機器	2.8%			○
5	T D K	電気機器	2.8%		○	
6	ダイキン工業	機械	2.7%		○	
7	SMC	機械	2.5%			○
8	日本電産	電気機器	2.5%			○
9	オムロン	電気機器	2.4%			○
10	住友金属鉱山	非鉄金属	2.3%	○		

組入株式の上位10業種		
順位	業種名	組入比率
1	電気機器	29.3%
2	化学	20.0%
3	機械	18.3%
4	鉄鋼	4.8%
5	非鉄金属	4.2%
6	輸送用機器	3.9%
7	その他製品	3.6%
8	繊維製品	3.2%
9	ガラス・土石製品	3.1%
10	精密機器	3.0%

※基準価額は1万口当たりです。
※分配金は1万口当たり税引前です。
※組入株式の上位10銘柄・業種は2019年8月15日現在。
※組入比率は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

ファンドの特色

- 日本の株式市場における投資魅力のある各種テーマを策定し、3ヵ月毎に投資テーマの選定、入替を行い、選定されたテーマに合う日本の株式に投資します。
- 運用にあたっては、投資候補となる各種テーマの銘柄リストを作成し、各種テーマの1ヵ月間のリターン/リスク※の測定を行い、パフォーマンスの上位3つの投資テーマを定量基準を用いて選定します。
※リスクに対するリターンの比率で、この値が大きいほどリスクあたりのパフォーマンスが良好といえます。
- 原則として、3つの投資テーマの投資比率が入替時において均等となるよう各テーマの全構成銘柄に投資します。ただし、財務内容や流動性等を勘案し、構成銘柄の一部を投資対象から除外することがあります。
- モルガン・スタンレー・アジア・リミテッドから、投資テーマおよび投資銘柄に関する情報の提供を受けます。



※上記投資テーマは一例であり、今後変更となる場合があります。

（作成：運用本部）

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「日本株テーマセクション」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



日本株テーマセクションに関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。
※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- 取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.6632%（税抜1.54%）
- その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0108%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三オンライン証券株式会社	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
永和証券株式会社	近畿財務局長(金商)第5号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡地証券株式会社	東海財務局長(金商)第5号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	
むさし証券株式会社	関東財務局長(金商)第105号	○			○
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

＜本資料に関するお問合わせ先＞

フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)